

審査の結果の要旨

氏名 モアザム アリ

本研究はパキスタンの女性の母体死亡が 100,000 の出生に対して約 350-435 人という悲惨な状況にある中、パキスタンの Punjab と NWFP 地域で、母体の健康増進を目的に、国連が推奨する基準をもとに、救急産科ケアの実態を確認、比較したものである。また、ヘルスケアの管理者らの病院のサービスの質の向上を図るために、クライアントの満足度を知り、クライアントにとって重要なサービスの質の因子を明らかにしたものであり、下記の結果を得ている。

1. 170 の医療施設のうち、調査地区の 22 の医療施設が標準の救急産科ケアサービスを、37 の医療施設が包括的なサービスを提供していた。わずか 5.7%の出産がこれらの医療施設内で行われていた。Met(遂行)のニードは 9%であり、帝王切開術での出産は 0.5%であった。致命率は 0.7%と低かった。これには、記録の保管の不備が関係していると思われる。多くの病院では女性スタッフが不足しており、特に女性医師の勤務はわずか 41%であった。病気やけがの場合の緊急搬送の要望はあるものの、ほとんどの病院では実施されていなかった。医療施設のアクセス率や他の統計指標は Punjab より NWFP の方が高かった。しかしながら、ほぼ全ての指標は UN(国連)の推奨以下であり、政策立案者や保健行政に携わる人らは、母体死亡を減少させるために、地区および病院レベルで早急かつ適切な政策を練る必要がある事が示された。

2. クライアント満足度の決定因子に関しては、デモグラフィック変数、クライアントの質の認知、満足の間に関連を認めた。対象の年齢、子どもの数、受診回数の増加とケアの満足度に有意な正の相関が、また、低い教育レベルとケアの満足度には負の相関が認められた。因子分析により、コミュニケーション、責任、規律、人との接触、アクセスの 5 つの因子が抽出された。重回帰分析により、5 つの因子とクライアント満足度とに有意な関係が認められた。クライアントと医療従事者とのコミュニケーションは、政府が行っているサービスに対するクライアントの満足度を予測する変数として最も影響が強いという結果を得た。このことは、医療従事者の技術や能力より重要な変数と示された。

以上、本研究は、パキスタンでの緊急産科医療サービスの質を評価した最初の報告書である。本結果から、クライアント中心のヘルスサービスモデルによって、パキスタンの現行のシステムを大きく変えることなく、クライアントの満足度が増し、サービスの利用も増えると考えられる。このことより、本結果は、今後、発展途上国にあるパキスタンの保健医療に大きく貢献されると思われるため、学位の授与に値するものと考えられる。